

READING POWERの使用感について

宇都宮 正朗

はじめに

過去2回にわたり『リーディングパワー』を使用する機会を得た。使用した2冊は初版(平成8年刊行)の初級編と改訂版(平成15年刊行)の発展編である。問題集の版や設定対象が異なることから正確な比較はできないが、この機をとらえて2冊の『リーディングパワー』の使用感について述べてみたい。同時に、指導の際に参考にした『日本における英語教育の研究』和田稔(1997)と『英文読解のストラテジー』天満美智子(1989)についても、教材の扱い方とともにレポートしたいと思う。

1-1 READING POWER初版について

書名等	READING POWER Elementary リーディングパワー 初級編 明海大学教授 和田 稔・監修 JEC 英語教育研究会・著
発行時期	初版 第1刷 平成8年2月1日 ※すでに絶版になっています。
内容	21レッスン
ページ数	47ページ
構成	L.1～3 Scanning L.4～6 文のつながりを読み取ろう L.7～10 予測 L.11～12 Phrase Reading L.13～17 Paragraph Reading L.18～21 Skimming
実施時期・校名	2000年 第2学年2月～第3学年5月 大分県立佐伯鶴城高等学校

1995年(平成7年)12月、はしがきの中で和田稔氏(監修者)は、応用言語学などの英語教育に隣接する

学問領域の進展と読解指導の関連について触れながら、『リーディングパワー』の目的について次のように述べている。

「読解指導については学問的研究は進展したが、それを英語学習者の日常の読解作業に具体化する方策はそれほど盛んではなかった。そこで、本書では「問題集」という極めて実践的な形で、研究と実践の橋渡しを試みたのである。」

研究と実践の橋渡しとして『リーディングパワー』(以下RP)が刊行された。実践の場にいる我々指導者はRPを通じて目の前にいる学習者と学問的研究の橋渡しをする役目を得たわけである。しかし、その実践のためにはRPに書かれている解説・内容はもちろんのこと、書かれていない部分(指導者の理解が前提となっていた部分)についての研究が不可欠であった。このため、指導陣が座右の銘としたのは『日本における英語教育の研究—学習指導要領の理論と実践—』和田稔(1997) 桐原書店と『英文読解のストラテジー』天満美智子(1989) 大修館であった。両書を頼りに学習を重ね、実践を試みた。

<備考>

初版のRPの設定は以下のとおり。(問題集付属の帯による。)

	高 2	高 3	短大 入試	センター 4大入試
Elementary(初級編)	—			
Intermediate(中級編)		—		
Advanced(上級編)			—	

1-2 テキスト前半の実践

初版のRPはLesson1～3が「scanning」、Lesson4～6が「文のつながりを読み取ろう」であった。

scanningのトレーニングはその活動だけでは単調になる恐れもあり、L.1とL.4をパックにして1時間(50分)を構成した。(同様にL.2とL.5, L.3とL.6)生徒にとってscanningはそれまで経験してなかった活動・視点だったこともあり、時間を計測しながらタスクをかけると大変熱心に活動したことを記憶している。タスクの内容は表中より必要な情報を探し出すというものであるが、このスキルがセンター試験等での目の動きを想定している事は言うまでもない。また、L.4～6の各レッスンの目的は次のとおり。

L.4 「文のつながりを読み取ろう」(1)

文章の内容を予測し、論理展開を把握するために文と文をつなぐ語(接続詞・代名詞)に注意する。

L.5 「文のつながりを読み取ろう」(2)

レッスン4の内容に加え、副詞句や他の語句による言いかえにも注意を払う。

L.6 「文のつながりを読み取ろう」(3)

文章の内容を把握するために情報の流れ(すでにわかっている情報→新しい情報)に注目する。

各レッスンは3行ほどのシンプルな解説の後、Pre-Reading, Reading, Post-Readingと段階を経て紙面・問題が構成されていた。実際、50分の授業ではPost-Readingまでのフォローは時折厳しく、解答を配布し復習時に確認させる事もあった。L.4～6の解説の行間を埋めるために参考としたのは前述の『日本における英語教育の研究』p.167「予測・推測」(predicting / guessing)や『英文読解のストラテジー』p.110「テキストの手がかり」などである。

『日本における英語教育の研究』はその後のレッスン(L.7～10)でも大変参考になり、たとえばL.10の「次に来る語句を予測しながら読もう(3)」では次の部分を参考にした。

効果的な読み方をする読み手は予測力(the ability to predict)を最大限に活用する。読解過程は予測・推測の過程と言ってもよい。読み手は予測・推測が間違っている場合は、推測や予測を変えながら読んでいく事が必要となる。したがって、読解指導では推測力・予測力を身につけることを目的とした指導を行なう必要がある。(p.167)

さらにRPの解説には「上手な読み手は、文章を読むときに、自分の知識や経験をもとに、話の筋を予測しながら読んでいきます。」とある。(p.22)『日本における英語教育の研究』でのこの項目に関連した

記述は次のとおり。

読解においては、明示的(explicitly)に文章に表れていない意味を読み取る能力は大切である。この能力は読み手の経験などの「内容スキーマ」(content schema)や「推論」(inference)する能力に大いに関連がある。(p.170)

「内容スキーマ」については『英文読解のストラテジー』p.49, p.107が参考になる。

また、Bransford, J, Vye, NとStein, B (1984)はcontent schemaを次のように説明している。

Prior knowledge that readers possess regarding a certain text is activated by reading the text. Readers are able to find interrelation between their underlying knowledge and new information in their cognitive process.

A Comparison of Successful and Less Successful Learners: Can We Comprehension and Master Skills?, Promoting Reading Comprehension 216-231

1-3 テキスト後半の実践

続くL.11～12はPhrase Readingをテーマとし、“sense group”をキーワードに、文意でスラッシュを入れ左から右へと情報を整理していく作業(fluent direct reading)を目標としている。

RPはその後L.13～17の5レッスンを通じてParagraph Readingを扱い、各レッスンの目標は次のように設定されている。

L.13 topic-sentenceを探し出し、パラグラフの主題を的確に把握する。

L.14 はっきりしたtopic-sentenceがないパラグラフを読む。

L.15 パラグラフの中の展開

L.16 パラグラフ相互の関連

L.17 パラグラフ全体の内容・文章全体の内容

問題集の後半に配し、また、全21レッスン中5レッスンをパラグラフリーディングが占めている事からも、この内容を定着させることがRPの大きな目標の1つであると言えるだろう。これらのレッスンは、いわばそれまでの細部に焦点を当てたトレーニングから、いよいよ英文読解の実践へと移行している。L.17に書かれた目標を確認するには学習指導要領(1989)の「リーディング」における読むことと言

語活動について注目する必要があるだろう。

第6節 リーディング

2 内容

(1) 言語活動

- ア) まとまりのある文章の概要や要点を読み取ること。
- イ) 目的に応じて文章の内容を整理して読み取ること。
- ウ) 内容を読み取って、それについて自分の考えを話したり、書いたりすること。
- エ) 文章の内容に応じて適切に音読すること。

(pp.50-51)

この点と『日本における英語教育の研究』の関連を見る。

総合的読解(full understanding)

今までに、読解(reading comprehension)を構成する重要な能力(skills)をいくつか取り上げ、それらの能力を育成するための指導方法を具体例を使いながら考察した。実際読解活動では、それらの能力が総合的に活用される。それらを整理すると次のようになる。

- (1) 要点(the main idea)を的確に読み取る能力。
- (2) 概要や支持文を正確に見分ける能力。
- (3) 推測・予測・推論しながら文章を読み取る能力。
- (4) パラグラフなどの文章構成の特徴を活用して読み取る能力。(pp.171-172)

Paragraph Readingの実践はパラグラフの構成やパラグラフ内の文の關係に注目しながら要点を把握することを目標としている。そのためにはテキストの型に関する知識(formal schema)やdiscourse markersなどの話の流れを示す語や語句の機能についても知る必要がある。この点については、『英文読解のストラテジー』が構造上の手がかりとなるものを列挙しており大変参考になる。(pp.99-100, 110-111)

また、『日本における英語教育の研究』では「書くこと」の指導の中でパラグラフの構成やパラグラフとエッセイの關連が図解入りで説明されておりわかりやすい。「ライティング」の指導を通じて書き手の視点を与え、「読むこと」と「書くこと」を有機的に関連づけることが肝要であろう。(pp.180-185)

『日本における英語教育の研究』によると skimming は次のように定義されている。

スキミングは「すくい読み」とか「走り読み」とか言われているが、それはテキストの「主題」(topic / main idea)を読み取り、書き手がいちばん伝えたいことを正確に読み取る活動であり、「概要・要点」を読み取ることである。(pp.158-159) 上述の「書き手がいちばん伝えたいこと」、に注目すればそれは「メッセージ」と言いかえることができるだろう。「メッセージ」は、コミュニケーションの視点から見ればsender / receiverをつなぐものである。つまり、読解活動において書き手の「メッセージ」をつかむことはその後の発展的なコミュニケーション活動を可能にするということである。このことは前述の学習指導要領「リーディング」における読むことの言語活動(ウ)の展開だと考えることができる。

RPでは最終レッスンをskimmingの指導に充て、問題集の最後を締めくくべき展開となっている。「読む」という活動をinputだけの受動的(receptive)なものに終わらせず、「読むこと」を通じて能動的・生産的(productive)な活動に発展させるためにもskimmingは重要なスキルである。

この「予備的な読み」(天満 1989)については他の読み方の種類と併せて、今後さらに研究の必要性を感じている。

1-4 旧版のまとめ

第2学年2月に始まったRPの指導は第3学年の5月まで行われ、その後の問題演習の基礎・基盤となった。年が明けて2001年の大学入試センター試験の全国平均点は前年に比べ、約-9点という厳しい結果であった。しかし、RPを読解学習の礎とした生徒たちはおおいに健闘し、また、来るべき個別試験や私大入試にも不安を抱くことはなかった。厳しいセンター試験の後、当時の教頭先生(英語)は私にこうつぶやいた。「(RPを)やっというてよかった。もしやっとなかったら…」先生は過去に県教育委員会の指導主事を務められており、この一言はRPの指導を貫徹した1人の英語教師として感無量のものであった。

2-1 READING POWER 新版について

書名等	READING POWER Advanced リーディングパワー 発展編 明海大学教授 和田 稔・監修 JEC 英語教育研究会・著
発行時期	改訂版 第1刷 平成15年2月1日
内容	15 レッスン+ 11 EXERCISES
ページ数	55 ページ
構成	L.1～2 Phrase Reading L.3～4 文のつながり L.5 推測 L.6～7 予測 L.8～11 Paragraph Reading L.12～13 Skimming L.14～15 Scanning
実施時期 ・校名	2003年 第2学年3月～第3学年5月 大分県立大分舞鶴高等学校

旧版同様まずは監修者のはしがきに注目してみたい。

(略)…英語の読解指導についてさまざまな学術書・研究書が出版されている。それらから学ぶ知見は多い。しかし、他方、実際の指導では、伝統的な「文法訳読」式の読解指導も依然として根強い。学問の分野からの知見と実際の指導の乖離が存在するのである。この乖離は学問研究の成果と実践を橋渡しする教材が不足していることが原因のひとつであると考えられる。そこで、その橋渡しを意図して、このワークブックが作成されたのである。(下線は宇都宮)

旧版の内容(本稿p.1)をほぼ踏襲しているが、以前は述べられなかった「伝統的な「文法訳読」式の読解指導の依然とした根強さ」と「教材の不足が学問研究の成果と実践の乖離の原因のひとつである点」が気になる。依然として根強い伝統的教授法を背景とし、研究と実践の橋渡しができない理由が教材の不足以外の部分で見つかるとすればそれは一体何なのであろう？

2-2 比較

概要

新版の総レッスン数は15レッスンで旧版と比較して6レッスン減である。しかし、総ページ数は8ページ増加している。これは各レッスンが終了するごとにEXERCISESが配され、実践的演習の中でスキルの定着が目ざされているからである。

構成

一部スキルの配列が変化し、旧版でL.1～3のscanningが最終章のL.14～15に配されている。旧版同様、scanningからのスタートも検討したが、今回はレッスンの順にフォローすることにした。というのは年間シラバスで次時演習にセンター型が予定されており、スキニングのスキルが即座に活かされると判断したからである。また、Phrase Readingの位置も変化している。

<備考>

新版のRPの設定は以下のとおり。(問題集付属の帯による)

	高1	高2	高3・入試
リーディングパワー基本編	—	—	
リーディングパワー発展編		—	

2-3 各レッスンの感想

L.1～2 Phrase Reading

旧版ではL.11～12という中盤に配された項目が最初のレッスンに登場している。このことはまずこのスキルを身につけて次段階へと移行すべきだとの配慮からであろう。適切な配列であると考えている。内容としてはp.5のReading 3が難解である印象を受けた。ALTと議論をしたが、彼女の言葉を借りるならば“philosophical, abstract”という事である。編集部と連絡を取り各レッスンの出典について確認したがこのテキストについての記載はなかった。前後がある文章で途中を採用した可能性についてうかがいたいところである。

L.3～4 文のつながり

位置的には旧版と変わらない。特にp.15のReading 2は文整序や内容説明の設問が配されており、より実践的で好感が持てた。

L.5 推測

語句の成り立ちや文脈から推測力を養成する点は

旧版に準じる。しかし新版ではコロンのセミコロン等の用法についての説明が付されており、このように「書き手の視点」を学習者に与える事は大変有効であると感じた。

L.6～7 予測

文脈に沿って読み、「予測」させることはL.1～2のPhrase Readingをさらに強化(reinforce)することにつながる。Reading 2は文意から()に入るべき語句を選ぶ問題である。(p.23)

この指導の際、文脈による品詞に関する予測の後、考えられる単語のイメージを追わせた。前後の内容から“プラス”の意味を持つ語が入るであろうことを確認し、その後選択肢に注目するよう指導した。このような読み方は未知の単語に対してどのようにアプローチするかという効果的な辞書の活用につながるだろう。

また、このように概要を把握したり筆者の視点を探る予測の活動は後に取り組みskimmingと連動していると考えられるがどうだろう。

L.8～11 Paragraph Reading

旧版では5レッスンで展開されたParagraph Readingは今回4レッスンとなっている。p.31では主題文を探すタスクが設定されているが、いずれも第1文がtopic-sentenceで、わかりやすいパラグラフ構成の英文を題材に使う配慮が見られる。topic-sentenceを見つけ出す活動は題材に負うところが大きい。平素から「英語I・II」や「リーディング」の授業を通じて機会を逃さず指導することが肝要であろう。

L.12～13 skimming

skimmingの項では英文を英語でまとめる活動(p.42)を取り入れるなど、より理想的な展開となっている。また、p.46では手紙を題材にsender/receiver/messageをまとめさせるなどコミュニケーション能力の育成に視点を置いた設定となっている。新学習指導要領(1999)にある「書き手の意向を理解する」を具体化したタスクと言えるだろう。(リーディング 言語活動 イ) p.59)

L.14～15 scanning

L.14では旧版同様、表中より情報を検索する活動が配され、L.15は、英文中より必要な情報を得る活動となっている。日本語でまとめる作業やチャートを埋める作業で取り組みやすい。学習指導要領

(1989)にある「様々な目的に応じた読み方」(p.50)や、新学習指導要領の「まとまりのある文章を読んで、必要な情報を得たり、概要や要点をまとめたりする」をかなえる活動の1つであろう。(p.58)

ただし、p.53のインターネットで恩恵を受ける人びとの3番目の解答「single parentsの子どもの教育」について疑問を持つ生徒もいたようである。これは、教育に関するインターネットの活用が日本と欧米とでは異なる点や、教育のシステム(たとえば米国のhome-schoolingなどの)の既存知識の不足が原因だと考えられる。この点についてはさらなる記述を求め出典の入試問題を確認したが題材に変化はなく、新たな発見は得られなかった。(平成12年宮崎大学前期)

2-4 新版のまとめ

2003年3月から始まったRPの取り組みは5月中旬に終了した。生徒の様子から見ると、題材の設定がやや高めではなかったかと感じている。今回の改訂により新版はBasicとAdvancedの2グレードの設定となった。個人的には旧版のようにIntermediateが設定されていたら、とも思う。要は指導側の解説次第であるわけだが、スキル習得は易しめの題材のほうがスムーズにいくかも知れない。この点については、Advancedを使用しようとも、傍らにBasicを置いて参照することを勧めたい。

おわりに

2002年の12月に新版のRP(Basic)を手にしたとき、少なからずショックを受けた。というのもレポートの前半で述べたように、旧版での解説・説明部分は必要最小限であり、授業を成立させるためには指導者の不断の学習・研究が必要とされていたからである。テキストを使いこなすための指導者のレベルアップが暗に要求されていた旧版に比べ、新版は説明部分の充実とともに幅広く扱いやすい内容へと変化した。つまり、学習者がより主体的に学べる内容へと進化したようだ。この進化をどう受け止めるかは人それぞれであろう。いずれにせよ、RPを最大限に活用するためには今後とも指導者側の研究が不可欠だろう。

2度にわたる『リーディングパワー』の使用は自分自身の指導力に大きな影響を与えた。加えて、実践

を共にした指導陣にとっても大きな糧となったことと信じる。この場を借りて、『リーディングパワー』を監修された和田稔氏、JEC英語教育研究会、そして数研出版に心から感謝したい。『リーディングパワー』の指導を貫徹することが指導力の向上につながることは明白である。

2-5 実践例 (すべて新版 READING POWER の Advanced に基づく)

<実践例1 授業用ハンドアウト>

本文収録 CD の活用と、音声面の継続的指導をねらいレッスンごとに作成。授業の導入で使用。(B5版)

READING POWER L.1 Phrase Reading(1) pp.4-5 vocabulary sheet

Reading 1
prize /praɪz/ **enter** /ɛntər/ **depend** /dɛpɛnd/ **expect** /ɪkspɛkt/

Reading 2
ability /əbɪləti/ **close** /kləʊs/ **develop** /dɪvɛləp/ **security** /sɪkjʊərəti/
confidence /kɒnfədəns|kɒn-/ **allow** /əlaʊ/ **independent** /ɪndɪpɛndənt/ **await** /əweɪt/

Reading 3
equal /i:kwəl/ **shape** /ʃeɪp/ **thought** /θɔ:t/ **image** /ɪmɪdʒ/
observant /əbzə:rvənt/ **caring** /kɛərɪŋ/ **conversant** /kɒnvɜ:rsənt/ **worthy** /wɔ:θi/

単語フォローアップ ～授業で大切だと感じた語を復習時に再点検する。～

発音記号を単語の下(横)に	品詞	意味・例文

名詞 = Noun = n 動詞 = Verb = v 形容詞 = Adjective = a 副詞 = Adverb = adv
 前置詞 = Preposition = prep
 ただし動詞については他動詞(要目的語)と自動詞の区別を！ 有益な例文に学びなさい。

Microsoft/Shogakukan Bookshelf Basic を活用。

<実践例2 背景知識>

必要に応じ百科事典等を活用。

READING POWER p.10 L.3 Reading 1.
 レントゲン Wilhelm Conrad Röntgen 1845～1923 ドイツの物理学者。X線を発見し物理学と医学に大きく貢献したことを理由に、1901年、第1回のノーベル物理学賞を授与された。(中略) レントゲンは白金シアン化バリウムを塗布した幕とクルックス管をつかって、鉛の円盤の画像をうつしだした。画像には、円盤をもつレントゲンの指の骨もうつっていた。(マイクロソフト エンカルタより一部抜粋)

<実践例3 リスニングの課題>

音声面の強化と review をねらいとし、CDを活用する課題を作成。テキストは易→難のバランスを考え15パッセージを抜粋。(夏期休業中課題 B4版 全4p)

LISTENING POWER リスニングパワー ADVANCED

Procedure ~学習のしかた~

- ① まず本文に目を通す。スラッシュを入れ、意味単位で内容を解釈する。
- ② CDを聞く。聞きながら英文の内容を考え、また、どこに息継ぎ(スラッシュ部)があるかを点検する。長いパッセージはパラグラフごとに消化する。
- ③ 本文を見ずに音声のみに専念する。この際に意味内容がわかれば合格!
- ④ 各パッセージを夏休み終了までに最低3回は聞く。

CD1 TRACK2

学習日	月 日	月 日	月 日
-----	-----	-----	-----

1

The ability to depend on others is important for the growth of children. Children need to feel that they can depend on the adults they are close to. For it develops a sense of security and confidence that allows them to become independent. Children who grow up with this kind of experience can more easily look forward to life outside the family. Such children await new experiences with the confidence that they will be fruitful.

<実践例4 要約に関する実践>

(1) L.11 Reading 1を日本語でまとめるタスクは字数的に厳しいが、内容的に punch line が、含まれることが理想ではないだろうか。(以下は生徒の解答。)

*ある日兄がダイビングをしていた時、海底近くで手足をばたつかせる男性に出会ったが、実は溺れていたのであった。

*海に潜った弟は、水着一丁で手を振っている男を見て驚いた。何をしているかと思ったら、実は溺れていた。

*水中でもがいている人物に、兄は水中で書ける筆記具で何をしているか尋ねると、「溺れているんだ」と答えた。

(2) L.12 Reading 1を英語で要約する活動。(以下、準備した別解。)

In spite of different nationalities that make up America, the U.S. has been able to create a single nation. Americans' putting aside their national differences and regarding themselves as Americans enable them to live peacefully.

(3) L.13 Reading 2をパラグラフごとに要約させる活動。(以下は模範解答例。)

1 服装は日常生活のなかで大変力を持つ象徴である。服装は自分の気持ちに影響を与えたり、自分が何であるのかについての情報を伝えたりする。

2 服装は他人を知る材料の1つであり、第一印象に重要な影響を与える。その理由は、服装は目に見えて着ている人の背景の手がかりを持っているからである。たとえば司祭の襟のように象徴的な意味で身につけられるものがある。

<実践例5 考查問題> RPを題材に考查問題を作成。

(1) 題材… pp.38-39 Reading 2

(本文省略)

Write T(true) or F(false) for each sentence.

- 1) The rate of utterance in question form between parents and children is less than between adults.
- 2) "A test question" is asked to make sure that a child knows what it is.
- 3) When a parent and his/her child are in the different rooms, the questions are always categorized into "request for information".
- 4) A parent who asks a question in "directive" form wants a child to obey his/her order.
- 5) The reason why parents say "What?" or "Huh?" is that they are trying to get their children motivated to say something.

(2) 題材… p.33 Reading 2

(本文省略)

問1, 3については に入る文を, 問2については答えとして最も適当なものを, それぞれ下の①~④のうちから1つずつ選べ.

1) The second expression about time describes

- ① how American society is approaching a more comfortable life.
- ② how the value of the urban American life is placed on earning money.
- ③ how American people have many things to do in their short life.
- ④ how time is the second important thing in American life.

2) Why do most checkout lines take time?

- ① American refrigerators are so big that people shop once in a month.
- ② Using laser scanners is very helpful.
- ③ American people buy a lot of food at once and paying by check is preferable to cash.
- ④ American people do not bring cash with them because check is the best way to pay.

3) Waiting in line for a long time is a problem, so

- ① there are "express lanes" which accept customers buying exactly ten items.
- ② special checkout lines are set up for customers buying few items and paying by cash.
- ③ store employees have a special service to deliver items forgotten by customers to their houses.
- ④ stores plan to change every line into "express lanes" where people can shop quickly.

(3) 題材… p.23 Reading 2

問 次の英文に続く文章が, 順不同で下のA~Dに示されている。論理的な文章になるよう並び換えなさい。
If everyone were to be perfectly friendly and full of intellect and wit, certainly for the most part, our lives would be most pleasant.

- A) In the Japanese language, such relations between people, whether good or bad, are expressed by the term aisho.
- B) However, there are people who, for some reason, cannot get along well with each other, with each claiming "Anyway, I just don't like the way he says or does things."

- C) The term aisho is also used in relations between men and women in terms of their compatibility as husband and wife.
- D) For example, Mr. A meets Mr. X now and then for business negotiations but makes no progress in the talks. Mr. B, who is Mr. A's colleague, also sees Mr. X for the same purpose but unlike Mr. A, he gets along well with Mr. X not only in idle talk but also in business discussions. In such a case, Mr. A is said to have bad aisho with Mr. X and Mr. B good aisho with Mr. X.

At any rate, the term aisho indicates that everyone has his or her own likes and dislikes, so that as long as each individual is unique, even a man full of intellect and wit may not always get on well with others. That is life.

(4) 題材… p.46 Reading 1

The following passages are letters. What does each letter show? Choose the best answer.

- (1) Yesterday I went to your branch office to cash my paycheck. While I was waiting in line, two of the tellers left for lunch. I stood in line for twenty minutes, but when it was finally my turn, the teller told me he could not help me. He was going to lunch too.
- (2) We all enjoyed the occasion tremendously. We were provided not only with the opportunity to view the fireworks, but to meet and talk to the members and friends of your association in an informal setting.
- ① a shopper accuses an employee of bad manners
 - ② a customer complains about attitudes of the clerks
 - ③ a friend expresses thanks for being invited to a birthday party
 - ④ a guest appreciates the host's invitation
 - ⑤ a host thanks a guest for coming to the party